

令和 5 年 5 月 25 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02280

研究課題名（和文）学校づくりと地域づくりの好循環を生み出す「社会に開かれた教育課程」のあり方

研究課題名（英文）An ideal form of a curriculum open to society that creates a virtuous circle of school development and community development

研究代表者

熊谷 慎之輔（Kumagai, Shinnosuke）

岡山大学・教育学域・教授

研究者番号：30325047

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部の連携が、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の好循環を生み出すのに有効であることを実証的に明らかにしたうえで、両者が連携した地域学校協働システムを推進していくためのマネジメントのあり方を提案した。考察を通して、本研究の仮説も検証されたといえる。

さらに、岡山県内の実践事例をふまえて、「理念の重要性」、「『社会に開かれた教育課程』の捉え方」、「ビジョンの共有」、「地域学校協働システムの整備」、「学校運営協議会での協議による教育課程の改善」の視点から考察し、今後の方向性と課題についても明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の最終的な成果として、2023年3月に刊行された『岡山発！地域学校協働の実践と協創的教員養成』では、「社会に開かれた教育課程」の実現に資する地域学校協働の実践、とりわけ岡山県の教育委員会や小中高・特別支援学校における先駆的な実践事例をとりあげて分析し、全国的に発信していくという社会的意義に加えて、「教育課程（カリキュラム・マネジメント）」・「地域学校協働（コミュニティ・スクール等）」・「教員養成」を横串に通じて、「社会に開かれた教育課程」の実現を総合的に考察していることに学術的な面でも意義があると捉えられる。

研究成果の概要（英文）：In this study, we empirically clarified that collaboration between "community schools" and "regional school collaboration headquarters" is effective in creating a virtuous cycle of "school in harmony with the community" and "community development centered on the school", and proposed a management method to promote a regional school collaboration system in which the two are linked. Through the discussion, it can be said that the hypothesis of this study was also verified.

Furthermore, based on practical cases in Okayama Prefecture, we examined the importance of principles, how to perceive a curriculum open to society, shared vision, development of a regional school collaboration system, and improvement of the curriculum through consultation at the school management council, and clarified future directions and issues.

研究分野：生涯学習・社会教育

キーワード：地域学校協働 社会に開かれた教育課程 地域とともにある学校づくり 学校を核とした地域づくり
コミュニティ・スクール 学校運営協議会 地域学校協働本部

1. 研究開始当初の背景

これまで本研究代表者らは、学校・家庭・地域の連携協力を意図的・計画的・継続的に行うことの重要性に鑑み、そのための推進母体となる協議の場、つまり「連携推進母体」に着目した研究を行ってきた。とくに、科学研究費の助成を受け、「連携推進母体」としての「学校支援地域本部（地域教育協議会）」、「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）」、「公民館」のあり方を母体間の連携を重視して探ってきた。

現在、学校と地域については、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を改革の両輪に、“支援から、連携さらには協働へ”と発展していくことが目指されている。しかし、これまでの研究成果をふまえると、学校・家庭・地域の連携協力事業の内実はやはり「学校支援」であって、「学校を核とした地域づくり」は等閑視されてきたと指摘できる。このままでは、改革の両輪のバランスを欠き、「学校支援」を中心とした「地域とともにある学校づくり」のみの進展が予想される。これでは、学校と地域の互恵的な協働関係を創っていくことが難しいだろう。

そうした協働関係を構築し、両者の好循環を促していくには、学校の“教育課程”とつなげることが有効だと考えられる。教育課程とリンクするからこそ、「学校を核とした地域づくり」を意図的・計画的・継続的に推し進めることができる。そうした意味でも、新学習指導要領の特質の一つとして、「社会に開かれた教育課程」が示されたことの意義は大きい。その基本構想には、「社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会づくりを目指す」という理念を持ち、教育課程を介してその理念を社会と共有していくことが明記されている。こうしてみると、改革の両輪である「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」をつなぐ「軸（シャフト）」になるのが、「社会に開かれた教育課程」と位置づけることができる（図1）。

そこで、両者の好循環を生み出すには、どのような「社会に開かれた教育課程」のあり方が望ましいのかという学術的かつ重要な「問い」がクローズアップされてくる。

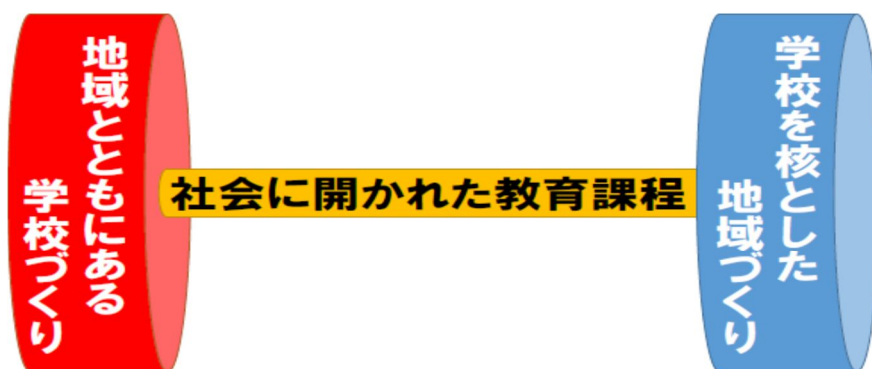


図1 「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」をつなげる「社会に開かれた教育課程」

2. 研究の目的

以上の問題意識のもと、本研究の目的は、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の好循環を生み出す「社会に開かれた教育課程」のあり方について考察することである。言い換えるなら、「社会に開かれた教育課程」の推進・実現は、「学校づくり」と「地域づくり」の好循環を生み出し、子どもと大人の学びあい・育ちあいにとって有効であるという「仮説」を実践的に検証していく。

3. 研究の方法

研究の方法としては、まず文献研究により、研究代表者を中心として「社会に開かれた教育課程」のあり方を理論的に探っていくことにした。とくに、「学校を核とした地域づくり」の「タテとヨコ」の「カリキュラム・マネジメント」、「ビジョンの共有」といった研究視点の妥当性を確認し、その精緻化を図っていった。同時に、研究代表者を総括に、研究分担者を定量分析リーダーとして全国的なアンケート調査、さらには定性的なインタビュー調査を予定していた。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大のなかで、調査研究の実施が困難となり、延期を続けていたが、最終的には大規模な調査は断念せざるを得なかった。そこで、新たに研究方法を組み直し、岡山県を研究のフィールドとして、実践的な研究により、研究課題に迫ることにした。研究代表者（岡山大学）がこれまで実践的に研究を進めていた岡山県なら、コロナ禍でも事例分析等で

研究を継続することができるかと判断したためである。

4. 研究成果

このように、新型コロナ感染拡大の影響で当初の研究計画や方法の変更を余儀なくされたが、岡山県内を中心に、学校や教育委員会等と連携協力して研究を進めることができた。その結果、以下にあげる2冊の著書を刊行することができたことは大きな研究成果といえる。そこで、その概要を以下にまとめることで研究成果として示しておきたい。

(1)『地域学校協働のデザインとマネジメント：コミュニティ・スクールと地域学校協働本部による学びあい・育ちあい』2021年（学文社）

研究代表者と研究分担者によって、2021年に執筆された本書は、管見の限りではあるものの、地域と学校との協働、すなわち地域学校協働に関する初めての専門書といってよいのではないかと考えている。政策動向や好事例、汎用性の高いモデルを提示するだけの、いわゆるハウツー本にならぬようにも留意した。その意味では、本科学研究費による文献研究等を中心とした研究の成果に基づいたものである。

さらに、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の好循環を生み出すには、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部の連携が有効であるということを実証的に明らかにしたうえで、両者が連携した地域学校協働システムを推進していくためのマネジメントのあり方を考察し、提案している。本書の考察を通して、「社会に開かれた教育課程」の推進・実現による「学校づくり」と「地域づくり」の好循環は、子どもと大人の学びあい・育ちあいにとって有効であるという「仮説」も検証されたといえる。

(2)『岡山発！地域学校協働活動の推進と協創的教員養成：「社会に開かれた教育課程」の実現を目指して』2023年（福村出版）

「社会に開かれた教育課程」の実現に資するためには、学校の「本丸」ともいえる教育課程を地域学校協働によって地域社会に開いている先駆的な実践事例をとりあげ、その成果と課題を考察していくことが重要だと考えられる。

そこで、本書は、「社会に開かれた教育課程」の実現に資する地域学校協働の実践とそれを促す教員養成について、実践的なアプローチから考察を試みようとして企画したものである。その意味では、本科学研究費による実践的な研究の成果をまとめたものといえる。

もう少しいうと、「社会に開かれた教育課程」を実現していくには、「教育課程（カリキュラム・マネジメント）」・「地域学校協働（コミュニティ・スクール等）」・「教員養成」を横串に通して考察することが必要かつ有効であると本書は捉えており、この点が特徴にもなっている。こうした企図や特徴をもった本書の構成として、前半（第1部）では「社会に開かれた教育課程」に実現に資する地域学校協働の実践、とりわけ岡山県の教育委員会や小中高・特別支援学校における実践事例をとりあげている。

この実践事例をふまえて、「理念の重要性」、「『社会に開かれた教育課程』の捉え方」、「ビジョン（目指す子ども像）の共有と地域学校協働体制の整備」、「学校運営協議会での協議による『教育課程の明確化』と改善」の視点から考察し、今後の方向性と課題も明らかにしている。ただ、こうした実践を推進していくためには、教員の力が不可欠であり、そうした力をもった教員をいかに養成していくかが、次なる重要課題として浮かび上がってきた。

そのため、本書の後半（第2部）では、2018（平成30）年度から導入された岡山大学の「岡山県北地域教育プログラム」による協創的教員養成をとりあげている。本プログラムは、岡山県北地域の学校現場と地域に対応し、地域学校協働の観点から学校と地域を活性化するために、学校教育をとりまく多様な人々との連携・協働を通して地域社会に貢献していくことができる教員、授業実践に引きつけていうなら「社会に開かれた教育課程」の実現に資する教員の養成を目指して、導入されたものである。第2部では、本プログラムの構想と理念、プログラムの概要、学生の学びや育ち等について、4年間の実践をもとに分析・考察していく。最後に、「社会に開かれた教育課程」の実現に資する地域学校協働の実践を持続可能性のあるものにしていくには、第1部の実践が行われる学校と地域、さらには教員養成の中心となる第2部の岡山大学とを本プログラムを介して架橋していくことが重要になる。そのことについても最後に考察し、本書のまとめとした。本書で考察した「実践事例の総括」や「終章」は、本科学研究費による研究自体のまとめといえるものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 志々田まなみ	4. 巻 74(4)
2. 論文標題 地域学校協働活動をツールとした3つのプロジェクト：地域の課題解決学習と、新たな時代の教育開発と、コミュニティ・スクール運営と	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会教育	6. 最初と最後の頁 6-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志々田まなみ	4. 巻 384
2. 論文標題 『学校と地域の協働』による社会に開かれた学びづくりにむけて 山形県の好事例にみられる特徴	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山形教育	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計4件

1. 著者名 時岡 晴美、大久保 智生、岡田 涼、平田 俊治編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 福村出版	5. 総ページ数 216
3. 書名 地域と協働する学校	

1. 著者名 熊谷愼之輔・志々田まなみ・佐々木保孝・天野かおり	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 125
3. 書名 地域学校協働のデザインとマネジメント～コミュニティ・スクールと地域学校協働本部による学びあい・育ちあい～	

1. 著者名 熊谷 慎之輔	4. 発行年 2023年
2. 出版社 福村出版	5. 総ページ数 212
3. 書名 岡山発！ 地域学校協働の実践と協創的教員養成	

1. 著者名 山本 珠美、熊谷 慎之輔、松橋 義樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学文社 (GAKUBUNSHA)	5. 総ページ数 256
3. 書名 社会教育経営の基礎	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	志々田 まなみ (Shishida Manami) (30435044)	国立教育政策研究所・生涯学習政策研究部・総括研究官 (62601)	
研究分担者	天野 かおり (Amano Kaori) (20551625)	下関市立大学・経済学部・准教授 (25501)	
研究分担者	佐々木 保孝 (Sasaki Yasutaka) (30403596)	天理大学・人間学部・教授 (34602)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------